

歯肉退縮・咬耗・^{こうもう}摩耗・^{まもう}酸蝕症^{さんしょくしょう}

1. 知覚過敏と歯肉退縮

むし歯がないのに歯の付け根が冷たいものにしみる知覚過敏（象牙質知覚過敏症）は決してめずらしいものではありません。知覚過敏がおこるには、まず歯肉がやせて歯の付け根が露出すること、そして露出した歯面の保護が失われ、刺激に反応しやすくなるという段階があります。まず歯肉がやせる原因としては、もともと歯の付け根の骨が薄いという素因と過剰なブラッシングやかみ合わせで強い力が歯に加わったことなどが考えられます。



左の歯は正常な歯肉の状態ですが、右の歯は強すぎるブラッシングによって歯肉に傷がついて歯肉退縮しています

歯肉が退縮して露出した歯面から表面の保護がなくなる原因としては、研磨剤の多く入った歯みがき剤によるブラッシングなどが考えられます。その結果として、冷水や歯ブラシの刺激に対して神経が非常に敏感になります。対策として、歯科医院で適切な歯みがきの指導を受けたり、知覚過敏用の歯みがき剤を使ったり、食いしばりや歯ぎしりのチェックをしてもらうことなどがあります。程度によっては露出した歯面を保護材で覆ったり、食いしばりや歯ぎしりを防ぐためにマウスピースを使ったりします。

この他に象牙質が失われる原因として、歯が咬耗したり摩耗したり酸蝕症で損傷を受けることなどがあります。

2. 咬耗



咬耗が進行した状態

咬耗とは硬いものを咬みすぎたり、歯ぎしりや食いしばりによって生じる歯のすり減りです。ひどくなると歯が短くなったり欠けたり割れたりして、歯を失うことにもつながります。経過を見て、適切な治療が必要になります。

3. 摩耗



歯の表面が広く摩耗した状態

研磨剤の多く入った歯みがき剤を使って強く磨き続けたことによる歯の摩耗が見られます。歯科医院で正しい歯みがきの指導を受ける必要があります。

4. 酸蝕症



前歯の裏が溶けてしまった状態

ストレスが原因で嘔吐を繰り返し、胃酸のために上の前歯の裏側が溶けてしまった状態です。

いずれも見た目や歯の寿命に影響を与える場合があります。歯科医院で定期健診と必要な場合は治療を受けましょう。